那覇市立教育研究所 所報

令和7年度 7月号
所長　棚原 歩

「主体的・対話的で深い学び」と個別最適な学び・協働的な学びの一体的充実に向けて

―令和7年度 那覇市立教育研究所 研修会より―

去る七月七日、本研究所主催により開催された教育講演会おいて、文部科学省 初等中等教育局 主任視学官 田村 学 先生を講師にお迎えし、「『主体的・対話的で深い学び』を改めて考える―個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実―」と題してご講話をいただいた。以下に、講話の要点をまとめ、今後の本市教育に生かすべき視点を共有したい。

一 「深い学び」とは何か

田村先生は、「深い学び」とは単なる知識の蓄積ではなく、概念を中心に据えた知のネットワーク化（精緻化）を通して、知識や技能が構造的に関連づけられ、生きて働く力となる状態であると述べた。これは、学びが「内化（INPUT）」され、「外化（OUTPUT）」されるプロセスの中で、知識が繰り返し活用され、意味づけられ、変容していく過程である。

授業の設計においては、習得→活用→探究の連続性を意識し、学習課題を通して子どもが「つなぐ」「比較する」「見立てる」などの思考を働かせながら、知識を深く理解する構造を組み立てる必要があることが示された。

二 個別最適な学びと協働的な学びの両立

今後の学びにおいて重要となるのが、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実である。田村先生は、それぞれの学びにおけるメリット・デメリットを明確に示されたうえで、「一人ひとりで学ぶ」ことと「みんなで学ぶ」ことの両面を授業に位置づけることの重要性を強調された。

「個別最適な学び」では、子どもの興味・関心や認知特性に応じた学習環境を整え、学習方略を支援することが求められる。一方、「協働的な学び」では、対話や集団の力を活用して、思考の広がりや深まりを図ることができる。教師はその両者の接続点において指導性を発揮し、「自由な選択」と「適切な規定」のバランスをとることが必要である。

三 教師の指導性と学習環境のデザイン

「教師は教えなくてもよい」という誤解を避けるべく、田村先生は、今求められているのは「教師の高度で多様な指導性」であると語られた。特に、「直接的な指導」と「間接的な指導」を適切に使い分け、子どもが自律的に学びをコントロールできるように環境を整える力が問われている。

授業の導入では、課題や目的、ゴールを明確にし、学びの方向性を自覚させること。展開では、個に応じた学習の場面を設定し、終末では、学びの成果を可視化し、振り返りを通して自己の成長を実感させることが重要である。これらを通じて、学びのプロセス全体に意味を持たせる授業づくりが必要とされる。

四 学びを社会と結び付ける

学習指導要領改訂の方向性として示されている「社会に開かれた教育課程」の実現には、学びの意味や社会とのつながりを意識することが不可欠である。田村先生は、キャリア教育の視点や探究的な学習の重要性にも言及され、学びを通じて子どもたちが未来の創り手としての自覚を育むことの大切さを説かれた。

五 今後の那覇市の教育実践に向けて

本研修は、教師一人ひとりが授業の目的を問い直し、学びの質を高める契機となった。各学校においては、「深い学び」の視点を授業改善に取り入れるとともに、個別最適な学びと協働的な学びを柔軟にデザインする力を養っていくことが期待される。

田村先生の講話を通じて、私たち教育実践者は、子どもたちの学びを「内化」から「外化」へと導くナビゲーターとしての役割を再認識することができた。今後も本研究所では、質の高い学びの実現に向けた研修や支援に取り組んでいく。

文部科学省初等中等教育局　主任視学官
田村　学　氏　主な著書　※最新順
・『探究・STEAM・カリキュラム・マネジメント』
・『個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる授業づくり』
・『GIGAスクール構想時代の授業づくりと学校経営』
・『深い学びの実現に向けた授業改善ハンドブック』

8月　教育研究所事業

1日（金）教職２年目研修②
13日（水）中堅教諭等資質向上研修会⑥⑦
14日（木）教職３年目研修②
15日（金）Google アドバンス研修
　　ﾌﾞﾗｯｼｭｱｯﾌﾟ実践講座（生成AI）
18日（月）ﾌﾞﾗｯｼｭｱｯﾌﾟ実践講座（課題研・学校ポータル）
19日（火）ﾌﾞﾗｯｼｭｱｯﾌﾟ実践講座（教育相談・自立した学習者）
20日（水）中堅教諭等資質向上研修会⑧
21日（木）ﾌﾞﾗｯｼｭｱｯﾌﾟ実践講座（児童生徒理解・体育）
22日（金）ﾌﾞﾗｯｼｭｱｯﾌﾟ実践講座（国語・算数数学）
27日（水）拠点校指導教員等連絡協議会②
28日（木）初任者研修⑩

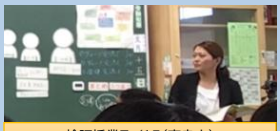
□令和７年度　第124期教育研究員

検証授業の様子

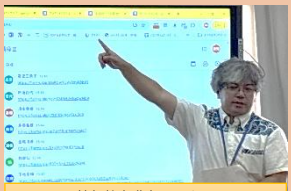
検証授業　6／3(大道みらいこども園)

検証授業7／4(鏡原中)

検証授業7／11(松川小)


検証授業7／15(高良小)

□各種研修・講座


情報教育講座Ⅱ6／26

第3回　中堅教諭等資質向上研修7／4

第6回　初任者研修7／3(ともかぜ振興会館)

第4回　中堅教諭等資質向上研修7／16
(中央公民館)

教育講演会Ⅱ

講師：文部科学省初等中等教育局
主任視学官　田村　学　氏

〈研修者の感想〉
- 質の高いインプットが、深いアウトプットに繋がるという言葉に共感し、教材選定や導入の工夫を意識したいと思いました。
- 子どもの学びの質を高めるには、教師自身が学び続ける姿勢を持ち、学習理論や授業デザインについてアップデートしていく必要があると感じました。
- 子どもが自分の言葉で語るためには、教師の問いや支援の在り方が重要であることに気づかされました。
- 個別最適な学びと協働的な学びの両立は、特別支援学級でも可能であり、今後の授業づくりに生かしたいです。
- 教師の指導性とは、教えること以上に子どもの思考を支える関わりであると、改めて考えさせられました。
- 支援学級担任として、アウトプットが苦手な児童にどう支援するか日々悩んでいる。黒板や ICT などを活用し、子どもの思考を「見える化」する工夫を取り入れていきたい。